

ある日の育児日記から (32) 佐藤 和代



「お父さん
さんのことよ」「お父さん
じゃないか？」
「一家にひとり、一歳児」
——なんて標語つくってま
た友人たちにあきれられて
いる私です。

有は一歳二か月。ようやく歩きはじめ、カタコト（らしきもの）も出てきました。
今、家族の関心は、ひたすら、有が最初に誰を呼ぶかにあります。まななんて、自分のことを呼ばせたくて「けいちゃん。言ってごらん、けいちゃん！」としつこいこととしつこいこと。
でも、今のところ有が一番多く発する言葉は、「はい」でしょうか。「ゆうくん、しんぶん、おとうさんに、ハイして」と言う「はい」と渡します。「さとうゆうくん」と呼ぶと「はい」。

いくで、みんなしょつちゅう「さとうゆうくん」と呼びかけるので、最近迷惑そうにしています。
ともあれ、子どもが一番かわいい時期って、しゃべり出す少し前、ああ言ったこう言ったと喜んでいられる時ではないかと思えます。夫婦げんかしていても、親子げんかしていても、有がひとこと「たー」と言うだけで、もう空気が違ってしまふ。「今、けいのこと呼んだー」「ちがう、お母さんのことよ」「お父さんじゃないか？」
「一家にひとり、一歳児」
——なんて標語つくってまた友人たちにあきれられている私です。



有が歩いたのから帰るまで
皆に言い回しを繰り返す